www.columnland.net

一振り

こくうま醤油ラーメンの作り方

1　ふたを①の線まであけ、具をすべて取り出す

2　お湯を内側の線まで注ぎ、ふたをしめて3分間まつ

3　ふたをすべてはがし、ねぎ1、粉末塩スープ、豚カルビチャーシュー、ねぎ2、北海道みそスープ、博多とんこつスープ、ねぎ3、黒ごま、担々エキス、特製ラー油、ねぎ4、ねぎ5の順に入れ、よく混ぜる

4　仕上げにこくうま油、ねぎ6、ねぎ7、ねぎ8を加えて完成

※ねぎ9～ねぎ16はお好みで加えてください

願い事が叶わない

私たちはよく、折々の願い事のために神社に行く。神社は立派な宗教施設であり、このような普段の何気ない行為が、実は何らかの宗教に即した行為なのである。合格祈願などで神様に祈りを捧げることの実態は何なのだろうか。

古来日本固有の宗教と言えば、多神教の「神道」である。文化庁によると、日本国内の神道の支持者は現在一億六百万人であり、私たちの大部分が神道を支持しているということになる。

神道は更に四つに分類される。その中でも私たちにとって身近な神道が「神社神道」と言うものであり、文字通り「神社」をその中心に据える。神社はその名の通り「神」を祀る「社（やしろ、建物）」で、日本全国の約八万五千の神社には現在、多種多様の神々が祀られている。つまり、私たちは神道に即してその折々の目的に合った神様に祈りを捧げているのだ。

しかし神様というものは、必要なときにだけ頼られてもその人の願いを叶えようとはしない。神様も生き物なので、普段から心地よく過ごしていないと、人の願い事を叶える気にはならないのである。だから、誰かが神様を居心地よくさせなければならない。

その役割を担っているのが、神社で働く「禰宜（ねぎ）」という人なのである。禰宜という言葉は、「和ませる」という意味の古語「ねぐ」から来ており、神の心を和ませてその加護を願う人という意味である。禰宜が普段から神様を丁重に扱っているからこそ、私たちの願いは叶うというのである。しかし実際は、願い事が叶わない時もある。神様がその人の願いを叶えたくないと思う時だ。

だから、私たちの家の中には「神棚」が存在し、普段から神様にその忠誠を示しているのである。神棚が無くても良い、願いを叶えてもらいたいのであれば、普段から神様に祈りを捧げ、禰宜の役割をささやかながら助けるということが大切なのである。

三振り

未知との遭遇

しんしんと白雪が空から舞い、田舎町の風景はすべてを美しい銀色に染めていた。身体の芯まで寒さが伝わってくるのを徐々に感じ始める。

一人旅の途中、鍋の店が見えたので私はそこに立ち寄ることにした。そろそろ身体を温めなければ、あとあと疲れも抜けきらなくなってしまうだろう。しかし店の暖簾まであと十歩というとき、薄汚れた男が正面から歩み寄り私にこう切り出してきたのだ。

「いま、寒い季節、冷えきってしまった身体を鍋をつつき温めたいなというご家庭があったとする。そこへ1羽のカモが飛んできた。なにをくわえていたと思う」

「……。ねぎ、ではないのですか」

「なぜそう考えた。なぜ奴はそれをくわえているんだ一体どんな心理状況だったのだ今すぐ答えろ！」

男は突然いきり立って早口で私に問いただす。

「すみません。そういった流れなのかと思いまして、そこまで深く—」

「そういった安易な結論にすぐ到達するのは君の悪い癖だ。死を招くぞ。」

男とは絶対に初対面だ。こんな友人はいない。無論欲しくもない。

「奴らがくわえているのはそんなものじゃない。自らを優位に想定しカモを利用するものの象徴と捉えるというのは大きな奢りだ」

なぜこんなにも眉間にしわを寄せ強い口調で、わけのわからないことを熱心に私に訴えているのだろうか。私は彼の話を進めようとした。

「実に申し訳ないです…結局、そのカモはなにをくわえていたのですか」

彼はほんの一瞬ためらうような表情をしたが、再び口を開いた。

「…信じられないかもしれないが、カモの巨—」

ぱくっ

その刹那、私の目の前を、なにか茶色く巨大なものが風を巻き起こしながら通過した。瞬時にして男の姿が消えた。私が硬直状態から我に返り眼で「それ」を追った時にはもう随分遠く小さくなっていた。足元には男がなぜだかずっと握りしめていたネギがぽつりと残されていた。

そして小さな身震いの後に、じっくりと考えた結論として、私は店にものすごい勢いで駆けこんだのだった。

四振り

美しく青きネギ

学校で受けた授業で私たちが憶えているのは、たいていその授業で最もどうでもいい話だったりしますよね。居眠りを起こされて発した友達のとんでもない一言、先生のよもやま話。今なぜか思い出しました。ある先生のある日の授業でのことです。

その先生は数学の先生でした。

「一週間くらい前にね、田舎からネギが届いたのね。こんなふうにね。」

――言いながら先生は、黒板に何やら細長い長方形の束を書きなぐりました。お世辞にも上手な絵とは言えません。上の方がなんとなくボサボサと分かれているので、きっとネギをあらわしているのでしょう。

「それで特に農薬とか使っていないから、こう土がついたままでね、」

――さっきの長方形の束に、ぐしゃぐしゃと汚れがつけられました。

「虫もやっぱりついているわけですよ。これは本来普通のことよね。虫がいるってことはまぁおいしい、ってことじゃない?」

――さらに小さな丸がいくつか加わりました。うーん、図示の必要はあるのか?

「で、その日まさかネギが届くなんて思ってなかったから、スーパーで買っちゃってたのね。こんな土もついてない、きれいなネギね。で、台所でその買ってきたネギと田舎からのネギを隣どうし一緒にして置いといたんですけど、」

――黒板には、さっきの束のとなりにもうひとつ同じような束が書かれ、二つの束の周りを先生は白いチョークでぐるぐると囲んでいます。

「そうしたらね!」

――先生の語気が強まりました!

「これ虫とか、移っちゃうかな、って思うじゃない。でもスーパーで買ってきた方の束には、寄りつかないのよ。この田舎のネギの集合、ね、で、スーパーのネギの集合。ね、これ移ると思うじゃない!でもきれいに真っ白なままなのね!!」

――いまや二つの束は二つの集合と化し、小さな丸は矢印がつけられて、完全に写像になっちゃってます。スーパーのネギたる集合には、きらきらとアスタリスクが舞います。そして最後に先生は勢いよく、極め付けに上からでかでかと『美』と大書しました。えぇぇ!

「いやぁ、スーパーのって本当に農薬たくさん使ってるんでしょうね、怖くなっちゃうわよね。じゃあ、この方程式ですけど、……」

結論とかあったのかよく分かりませんけど、そのあと授業が終わるまでその「『美』の集合」は消さずに残され、皆の語り草になりましたとさ。

今日の夕飯は鍋

とある主婦のママンが八百屋からねぎを3本買って、帰ってくるとき、ひったくりがママンのバッグを目掛けて突進してきた。

ママンは　ふいうちをうけた！
ひったくりの　こうげき！
ぬすむ
ママンは　バッグを　ぬすまれた！

ママンの　こうげき！
ねぎをなげる
ひったくりに　38ダメージ！

ひったくりの　こうげき！
とっしん
ママンは　46のダメージを　うけた！

ママンは　ツインねぎを　もった
ママンの　こうげき！
たたきまくる
ひったくりに　83ダメージ！

ひったくりを　たおした！
58の　けいけんちを　かくとく！
ママンは　レベルアップした！

ママンはバッグと取り戻し、ひったくりは逮捕された。しかし、投げて地面に落ちたねぎや、たたいて折れたねぎはもう使えそうにない。

夜、ママンの夫がこういった。
「今日の鍋は珍しいなぁ。ねぎがなくて、たまねぎが入っているよ。」

ねぎめ

「徳田ねぎ」の特産地で知られる岐阜県羽島郡岐南町。そこに伝わる郷土料理の一つに、「ねぎめ」と呼ばれる一風変わった食品がある。この「ねぎめ」発祥の逸話として、こんなお話があるのをご存じだろうか。

江戸時代後期、まだ岐阜が美濃国と呼ばれていた頃、ネギの栽培が盛んだった九剣村(後に徳田村と合併し、現在の岐南町に至る)に、一人の旅人が訪れた。当時、観音巡礼が庶民に広まり、美濃にも西国三十三所の礼所の一つ、華厳寺があったことから、このあたりでも巡礼者の姿がしばしば見られたのである。

疲れ切っていた旅の男は村で数日寝泊まりした。男は畑仕事を手伝うなどしてその気立ての良さを示し、村を出る頃には村人とすっかり打ち解けていたという。その見送りの際、男は村人達に一つの要求をした。これからの旅路に備えて、数日分の米を分けてほしいと言ったのである。実際、村を出た後は人家のない道が続き、一番近い宿場まで七日はかかる。村人は困惑した。というのも、当時の美濃藩主は藩外への米の流出に厳しい規制をかけており、巡礼者といえども村の米を渡すわけにはいかなかったのである。かぶりを振る村人に男は落胆し、肩を落として村を出ようとした。

と、そのとき、一人の娘が麻袋に詰めた一抱えのネギを担いで旅人に渡したのである。せめてもの好意に男は感謝し、袋を担いで村を後にした。娘の気持ちがこもったネギはずっしりと重かったが、所詮ネギである。その晩、焚き火の前でネギを取り出すまで、男は暗澹たる気分であった。しかし、ナタでネギを切った瞬間、切り口から米がこぼれ出たのを見て男は目を見張った。一計を案じたあの娘は、ネギの葉先に切れ目を入れ、筒状になっているネギの空洞部分に米を注ぎ入れて、糊で上手く切れ目をふさいだのである。麻袋のネギの中には、七日は充分に持つだけの米がぎっしり詰まっていた。

これを知った村人達は賢い娘に感心し、以後、訪れる旅人にこの「葱飯」を振舞ったという。現在この食品が「ねぎめ」と呼ばれるのはそれが訛ったものであるが、一説によると、この持出し行為が役人にばれないように、あえて「飯」という呼称を避けたのが元々らしい。

食べ方としては、まずそのままで蒸した後、ぶつ切りにして炭火でこんがりとあぶったものを八丁味噌をつけて食するのが一般的である。ご家庭でも簡単に真似できるので、一度作ってみる事をお勧めしたい。

七振り

タマネギをむいて歩こう

僕はネギ科の丸いやつ
ネギほど仲間はいないけど
寂しくなんかないもんね
奴らは奴らで僕は僕

ネギの奴らはいつだって
芯があるって言われてる
僕は見た目が丸いけど
ちゃんと芯もあるはずさ

僕は自分の皮をむく
芯を探して皮をむく
どんどんどんどん皮をむく
芯を求めて皮をむく

いつまでたっても終わらない
無限に続く僕の皮
歩みの鈍い亀を追う
アキレスになった気分だよ

皮をむくのはもうやめよう
最後に残った丸い粒
皮かどうかもわからない
芯でないのは確実だ

どうやら僕には無いようだ
大事な芯が無いようだ
今日は人を泣かせずに
僕が泣いてもいいですか

ネギの奴らはいつだって
芯があるって言われてる
僕は見た目も丸いやつ
芯を持たない丸いやつ

タマネギだけどネギじゃない
それでも名前に葱がつく
皮をむいたら皮肉が残る
なんで僕は『葱』なのか

この時僕はふと気付く
『葱』には『芯』が入ってる
名前に芯があるならば
僕にもいつかは持てるはず

希望を抱いて見つめるは
最後に残った丸い粒
今は芯がないけれど
未来に続く核がある

Are you “Onion”?

八振り

――元来小柄でひ弱な俺は、いつか武術でも習おうと思っていた。ある日、街で**道場**のチラシを見つけた俺は、丁度良い機会だと、軽い気持ちでその道場へやって来た。…そして今、どういう訳か俺の手には、『**白ネギ**』が握られている。

長根一葱流剣術指南

「よくぞ参った、我が道場へ！ワシはここの師範である、**長根　義太夫**（ながね ぎだゆう）じゃ。…さて、早速ではあるが、どうじゃ？**刀**の握り具合は。」

――そう語るのは、やたら威厳だけはある、白髪に白髭の爺さん。…つ～か、**刀**ってこのネギのことですか。新鮮そうではあるけど…。

「よいか、我が**一葱流**（いっそうりゅう）は鎌倉時代中期より続く由緒正しき流派。その高い戦闘技術と、イザとなったら武器を食べることができるという特長により、数多の戦で活躍を…」

――鎌倉時代からって…ネギで戦国時代生き抜いたのかよ！どうやって本物の刀とか火縄銃に対抗したんだか。まだ、あそこに置いてある**ホウキの方が断然強い気がする。**

「まぁ、話だけでは一葱流の凄さは伝わるまい。…それでは稽古を始めるぞ！その刀でワシに攻撃してみるがいい！」

――なんか稽古始まっちゃったよ…斬りつけてみるか。

「どりゃぁぁぁ～～！」

……**ペチッ**。まぁそうなるよね。

「コルァァァァ！何じゃその攻撃はぁぁ！」

ペチ～ン！　うわっ！痛ぇ！ネギで耳を叩くな、耳を！

「**ネギで人が斬れるわけ無かろう**！馬鹿か、君は？」

――そんなこと分かってますけど！アンタがやらせたんだろ！しかも、刀じゃなくてネギって言っちゃってるし！

「よいか？ネギで戦うときは、**突くことが基本**なのじゃ！このように、ネギの根の硬い部分を相手に向けて構え……**ひたすら眼を突く、眼を突く、眼を突くべしいい！**」

――うわ、戦い方エグいな！

…つ～かこれ、刀というより**槍**の戦い方じゃねぇか！

「実戦の直前には、この**根の部分を斜めに斬り落としておく**のじゃ。そうすることにより、貫通力アップに加え、眼にしみる汁の効果で、攻撃後も敵の目を眩ますことができる。また冬場は、**かじかんだ敵の耳を叩く**のも有効だ。地味に痛い。」

――なんだかもう、剣術というより敵への嫌がらせにしか聞こえないんですが。こんなので本当に実戦を……

バタ～ン！「たのもぉぉぉ！」

――うわっ、なんかゴツい男が十人ぐらい入ってきたぞ！しかも皆…**ゴボウ**を持っている？！

「ほう、**牛蒡流**の者共か。何の用じゃ？」

「**道場破りに**決まっているだろう、長根さんよぉ！もうネギの時代は終わったんだよ、これからはゴボウの時代だぁ！」

――いや、ゴボウの時代でもないと思うけど。

「若僧が…あまりワシをなめるでないぞ。」

――うっ！不覚にも一瞬、爺さんがカッコよく見えた！

「黙れ、老いぼれ！やっちまえぇ！」

――男達が一斉に斬りかかってきた（ゴボウで）！このままじゃ、爺さんのみならず俺までメッタ斬りに（ゴボウで）！

……おっ、爺さんが引き下がったぞ？…と思ったら、男達めがけて突っ込んでいった！一体どうなるんだぁぁぁ？！

ビシ、バシ、ビシィィィィ！

――思わず目を瞑ってしまった……あっ、爺さんと男達が互いに背を向けて…男達が皆その場に倒れこんだ？！

爺さんが勝ったんだ！スゲェよ、爺さんクールだよ！そしてその手に持ってるのは……あれ、**ホウキ**……

いや、そこはネギ使えよ！

――あ。爺さんが俺の冷たい視線に気づいた。

「あ、これは…いや、アレじゃし！

ネギごときで十人も相手にするとか無理じゃし！」

――うわっ！開き直んなよ……これはひどい。

「すみません…俺、やっぱり辞めさせていただきます。」

「なっ……。……そうか。……残念じゃが、しょうがない。では、せめてこれを持って行きなさい。家で鍋にでも入れてくれ。ドタバタに巻き込んでしまったお詫びじゃ。」

――そういって、爺さんは**エノキダケ**を一袋くれた…

…って、そこはネギくれよ！

九振り

ネギの効用

三十八度二分。どうやら風邪をひいたようだ。親は共働きなので、もう家には誰もいない。今日の学校は休むしかないな（よし）。

さて、風邪薬はどこかな～っと…がさ…ごそ……ない。空の入れ物だけが発掘された。どうしようかな……。そういえば、風邪にはネギが効くという話を漫画で見た覚えがある。…がさ……おっ、ネギはあんじゃん。あれ、でも長ネギと細ネギがあるなぁ。どっちにすっかな…。まあ大きい方が効果ありそうだから、長ネギにしとくか。

それで、この長ネギをどうすればいいんだ？漫画では、体中の……（涙）。あ、あれはネタだからいいとして、布団の近くに置いて寝ればいいのか？いや、もしくは摂取しなきゃいけないのか？はたまた、首にでも巻きつけるのだろうか？……よくわかんないから全部やっか。そういうことで、首にネギを三本巻きつけ、味噌ラーメン（細ネギも使えるじゃん！）を作るために、ネギを切ろうとしている時に、弟が起きてきた？…弟が起きてきた！

「あれ…お前学校は？」

「……今日は創立記念日だよ。んで、何の儀式をやってるの？悪魔でも召喚するの（笑）。」

その後、弟の誤解を解いている時に、ふと体がだるくないことに気付いた。結局、ネギはさながら悪魔のように、俺の風邪を兄としての尊厳と引き換えに治したのだった。

十振り

労(ねぎら)いに蒲公英(タンポポ)を

今日はお父さんのおたん生日。

朝起きて、まず「おめでとう」って言った。お父さんは「ありがとう」って言って、わたしのあたまをなでてくれた。それからいっしょにお父さんが作ってくれた朝ごはんを食べた。

わたしはお父さんと二人で住んでる。お母さんはわたしを産んだ時に、死んじゃったらしい。お母さんがいなくて、さみしかったことも、つらかったこともある。だけど、お父さんがいてくれるから、いつもわたしは元気。

わたしはお父さんがいちばん好き。だから朝はとびっきりのえがおで「おめでとう」を言った。ふだんの〝ありがとう〟や〝ごくろうさま〟をこめて。

そのことを学校でお友だちに話したら、「プレゼントはあげないの？」って言われた。わたしのたん生日の時に、たしかにお父さんはプレゼントをくれる。あまりお金はないはずなのに、ちゃんと毎年わたしがほしいものをくれる。

今まで一度もお父さんにプレゼントをあげたことなんて、なかった。そのことがわたしには、ひどいことのように思えた。だから今年はプレゼントをかならずあげようと思った。

だけどわたしは今、ほとんどお金をもっていない。それにお父さんがほしいものもわからない。お父さんに少しでも〝ありがとう〟をつたえたいのに、どうしていいのかわからなくて、学校のかえり道でなきそうになった。

でも、いつも明るいわたしでいたくて、がんばってまえを見ると、道ばたにタンポポがいっぱい、きれいにさいていた。おいわいでお花をあげることがあるのはしってるけど、タンポポなんて子どもっぽいと思った。だけどほかにあげるものはないし、きれいだったから、わたしはタンポポをあつめた。

家にかえってから、デパートでもらったつつみをつかって花束にした。

お父さんがかえってきて、すぐにタンポポの花束をわたした。

「今日もおつかれさま」

はずかしくて、お父さんのほうを向けなかった。すると朝と同じようにあたまに手をのせて、なでながらお父さんは言った。

「ありがとう。こんなにいっぱい愛してくれて」

お父さんがよろこんでくれたことがただうれしかった。この言葉を本当に理解したのは、数年経って、タンポポの花言葉が《真心の愛》と知った後だった。

十一振り

カモ狩り

そろそろ鍋料理が恋しい季節になってきました、ということで今日はカモ鍋を作るために、なぜか僕達はテロリストを制圧する特殊部隊張りに完全武装して近くの湖に来ています。ちなみに本日の装備は特殊素材防刃チョッキに迷彩服、アサルトライフルに加えて、僕と猿丸君はククリナイフ、菅原さんは軍用のナタ、橘君はなんと日本刀です。全部明らかに本物の重量感があります。なんで銃刀法違反で捕まらないのか物凄く謎です。警察仕事してください。

「それでは作戦の概要を説明する。本作戦では部隊を二つのユニット、αとβに分け、αチームを使って対象を湖の西からβチームの仕掛けた罠に追い込み、それを捕獲するという作戦で行く。今回βチームは罠を設置するための技術が必要となるため、俺と橘がβチーム、京極と菅原がαチームということになる。αチームは原則として対象を追い込むことを優先事項にしてくれ。作戦開始は一四〇〇。時間まで各自持ち場にて待機。以上だ。解散してくれ」

ハハハ、意味が分からない（笑）猿丸君、カモ鍋を作るなら普通に店でお肉を買えばいいんだよ、とツッコミたいのを我慢しつつ菅原さんと一緒に持ち場につきます。あの憧れの菅原さんと一緒にです。心臓バクバクです。テンションあがってきたー！

「なっ、なんかさ、猿丸君っておかしいよね。こんなに武装してカモ狩りだなんて」

「あら、彼は優秀な兵士よ。それにこの程度の装備無しにカモ狩りだなんてリスクが高すぎるわ。普段着に猟銃なんて出で立ちなら四回は死ぬわよ」

勇気を出して話しかけたら真顔ですごいこと言われました。っていうか四回死ぬってどれだけ危険なんですか、カモ狩り。全国のカモ猟師さんすげー。

「これより作戦を開始する。各員所定の行動を開始せよ」

菅原さんが立ち上がります。

「私が先行して敵を追い込む。あなたにはバックアップを任せるわ」

そういうと菅原さんはアサルトライフルを構えて行ってしまいました。僕もそれを追います。百メートルほど進んだ時、僕は対象に遭遇しました。

「待て、貴様の相手は私がしよう。我が名は鴨山葱衛門、いざ尋常に勝負！」

カモがネギを刀のように構えてしゃべっていました。シュールです。シュール以外の何物でもないです。でもちょっとかっこいいかも。

そんなことを考えてるとカモがネギで斬りかかってきました。ネギなら防御してもいいような気がしましたけど一応避けておきます。

ネギが僕の後ろの木に当たりました。なんと斬れました。真っ二つです。当たったら即死です。ということで僕は全力で逃げることにしました。

「貴様！勝負の最中に相手に背中を向けて逃げるとはどのような所存なのだ！ええい、待てい！おとなしく刀の錆になれ！」

いや、だってそれ当たったら即死ですよ。それにそれ刀じゃなくてネギです。とりあえず全力で東に逃げます。

「よくやったぞ、京極」

「何！貴様、拙者をはめたな！くそ、斬れん！」

後ろを振り返るとカモが網にかかってました。なんかうまく罠にかかったみたいです。結果オーライです。菅原さんを探すと、

「オラ！おとなしくしろ！ケツ穴にネギ突っ込んでそのオツム直してやろうか、あぁん！」

カモを足蹴にしてました。

菅原さん、その民間療法で治るのは風邪のはずだよ。そして、カモのオツムではなく僕の恋の病が治りそうだよ。僕にはその趣味はないからね。

まあそんなこんなでカモとネギが手に入ったので今日はカモ鍋になりました。ちなみに恋の病はかろうじてまだ治りませんでした。

十二振り

ラーメン先生

大学に入学して半年。小学校六年生の時にお世話になった担任の先生が亡くなったと、友人から聞いた。脳出血を発症し、それからはあっという間だったそうだ。

「先生の好物はラーメンだ。これから一年間よろしくな！」

最初の台詞がこれだった。すると先生は自己紹介もそっちのけで黒板にラーメンの絵を書いて熱く語りだしたのだ。ラーメンのスープから始まり、麺との相性、地方による味付けの違い、煮卵のトロトロ具合、等。永遠語って一時間。最後の締めくくりが葱の事だった。

「俺はたくさんのラーメンを食ってきたが、どのラーメンにも葱は欠かせないんだ。葱そのものがメインディッシュになる事は無いが、それでも葱が入っていないラーメンは、味に飽きる。お前達が食べるラーメンにも必ず葱が入っているだろう？だから・・・」

先生一息つくと自信たっぷりに言ったのだ。今でも鮮明に覚えている言葉だ。

「葱みたいな人間になれ。」

先生は何を言いたいのか、当時は良く分からなかった。しかし今になってこの話を思い出すと、何となく分かる気がする。決して主役じゃないけれど、周りと調和しつつ、ラーメンにシャキシャキとした食感を与え、その独特の風味でラーメンを飽きさせない。目立たないけど、居ないと困る。実はいい奴。

卒業アルバムを閉じると、自然と笑みがこぼれた。
でもラーメンの食べすぎには注意しようと決心した。塩分取りすぎだよ、先生。

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	こくうま醤油ラーメンの作り方	0 pt	9 位	1 sp
		ラーメンスタートな今週です。 まったくもう、このバカバカしさにブラボーです。まじめくさった顔でしれっとジョークを言うような。だから、よりいっそうオカシイ。その心理をみごとに突いて、完璧にマジメなマニュアル文体で攻めていただきました。 特別賞：粉末スープは先に入れま賞 from IGEN班（粉末スープは一番に入れるべきだ） イチオシフレーズ：「※ねぎ9〜ねぎ16はお好みで加えて下さい」		
02	願い事が叶わない	2 pt	7 位	0 sp
		来ました待望の正統派！ しっかり組み立てられて、何だか神社関係団体の勧誘パンフレットのよう。 神前にぬかずいて、すがすがしく手を合わせたくなるようなグッジョブでした。		
03	未知との遭遇	0 pt	9 位	0 sp
		ん？ 男がカモにさらわれた？ 状況がナゾのままでした。雪中怪談でしょうか。 容赦なくたたみかけてくる男の勢いが迫力。で、ぽつりネギ。雪の白さに埋まりそう。 作者さんはシュールを狙ったそうで。 イチオシフレーズ：「カモの巨——」		
04	美しく青きネギ	3 pt	5 位	0 sp
		実話かな、と思わせる臨場感トークでした。やっぱり実話ですか。なるほど。 「写像」とか「アスタリスク」とか、ちょっと凝った表現が学園モノテイストで、とてもハマってますね。これで集合論の授業になってたら、カンペキな先生だ！ イチオシフレーズ：「完全な写像になっちゃってます」		
05	今日の夕飯は鍋	0 pt	9 位	1 sp
		ママン、引ったくりをツインねぎで殴る。 とっても非日常な光景をゲーム仕立てにすることで、ありそうな光景に変換していただきました。 たまねぎ鍋、どんなお味でしょう。甘そう…… 特別賞：ドラクエ10賞 from asAtsuki班（ママン強いです!!）		
		24 pt	1 位	2 sp
		来ましたアヤシイ正統派!? もっともらしいけど、ありそうもない。江戸時代に宿場と宿場の間が７日間もかかるなんてアリエナイし。 そのありそうもない設定を、大まじめに蘊蓄トーク風に語って、しっかり昔話テイストに仕上げていただき		

06	ねぎめ	ました。新商品として売り出しますか？ 作者トークの第一声が「帰ってきました！」ほぼカンペキにダマしきっての圧勝首位となりましたね、おめでとう!! 特別賞：米を分けたら危ないで賞 from Onion班（白い粉になったら麻薬の密輸になる。取り締まりしろ） 実話で賞か？ from 藤子・F・不二雄班（フィクションだったら、なおスゴイ!!）		
07	タマネギをむいて歩こう	3 pt	5 位	1 sp
		中休みポジションは歌で軽快に♪ いや、うまいなあ、リズム感よく構成して、タマネギ君のいっしょうけんめいなキャラクターがしっかり伝わってきて、アニメ付きにしたら、このまま「みんなの歌」で行けそうです♪ 特別賞：歌ってほしいで賞 fromカモネギ班（上を向いて歩こうのメロディでうたえるんですよね！うたってください。お願いします） イチオシフレーズ：「未来に続く核がある」		
08	長根一葱流剣術指南	2 pt	7 位	1 sp
		こらあ、箒は反則だぞー（fromまじょ）。大根使え、大根を。大根切りっ！ そんなわけで、ラストのエノキダケに至るまで、徹頭徹尾、野菜攻撃なところが楽しい一品でした。 時代小説好きな作者さんかな。爺さんに池波正太郎『剣客商売』の面影を見ました。 ムチャ振りだったのに、みごとな実演までしてくださって、おつかれ！ 特別賞：地味に痛いで賞 from MIKU班（ねぎもってても銃刀法違反じゃないよね！） イチオシフレーズ：「ネギごときで十人も相手にするとか無理じゃし！」		
09	ネギの効用	0 pt	9 位	0 sp
		すごいねネギ。38度の発熱を1時間で治しちゃうんだ。 台所会話から兄弟の親密さが伝わってきて、ほのぼのしました。そこからつながったラストの「悪魔のように」という比喩がすとんと効いて、読後感も風邪の回復後のようにすっきりです。		
10	労いに蒲公英を	15 pt	2 位	1 sp
		ハートウォーミングストーリーが続きます。 語り口と、ひらがな主体の文章の工夫で、子供ならではのけなげさ（むしろ子供だからこそがんばってしまうけなげさ、か）をきっちり描出していただきました。 ラストでワザアリを狙ったのでしょうか。数年後の追記ならば、タイトルともどもそのような体裁に整えたほうが自然だった気もしますが。 ブラほわさん、こんなに高順位は初めてでしたっけ？おめでとうシルバーメダル!! 特別賞：暗いオチを期待賞 from 葱班（意外に良いオチだったから） イチオシフレーズ：「ありがとうこんなにいっぱい愛してくれて」		

11	カモ狩り	5 pt	4 位	1 sp
		なまじ前作を知ってるからか、どうしても「続く」気分で読んでしまい、今回はあまり盛り上がらなかったなあという印象になってしまいます。トンデモ状況（アサルトライフル）やトンデモキャラクター（菅原さん）が初めて出てくるときの新鮮なインパクトには、どうやっても叶わないので。 これはこれで巧く作り込んであるとは思うのですが、続編のむずかしさですね。 それでも、かなり票が伸びたのは、ごらんの通りのイチオシフレーズ人気。Mな男子が多いがゆえ、と見た！ はい、イチオシフレーズ大賞ゲットです、おめでとう菅原さん！ 特別賞：物は試しでやってみま賞 from VocaloiD班（ケツ穴にネギ入れるのもやってみるとうまくいくかもしれない） イチオシフレーズ：「ケツ穴にネギ突っ込んでそのオツム直してやろうか、あぁん」×３		
12	ラーメン先生	6 pt	3 位	2 sp
		ラーメンエンドな今週です。 表紙に引き替え、こちらはユーモアというよりペーソスかな。 ラーメン先生、熱く語ったあと、なんだか教師根性で教訓をくっつけなきゃいけない気分になっての、ムリヤリのネギオチだったのかも。かも（←縁語ね）。 でも、それが年月を経て、聞いた生徒たちの心のどこかに引っかかって人生の支えになってゆく。 教師稼業ｎ十年の私にとっては、ちょっとしみじみな裏表紙でした。 おめでとうブロンズメダル！ 特別賞：オレについてこい！賞 from ネギ班（もっと、熱くなれよ！ 先生！ 生徒を引っ張ってください） 永沢君で賞 from NEGIMA班（ネギ人間＝永沢君の方程式が成立しています。） イチオシフレーズ：「葱みたいな人間になれ」		

前代未聞のねぎセッション、
おつかれさまでした！